

環境学習コーディネート実施概要（Web掲載）

依頼No.	13	事例No.	11	依頼者	稲沢市立片原一色小学校	実施場所	小学校体育館
実施対象	4年生 1クラス 19名						
実施日時	平成30年7月18日（水）10時40分～12時20分（1時間40分（10分休憩））						
テーマ	総合的な学習の時間で身近な環境（水質）への関心を高める						

●依頼内容

生きものを中心とした身近な川の水質を守りたいという話ができる講師の紹介

●講師：公益財団法人 河川財団 名古屋営業所 小野氏

河川財団では、子どもたちが安全に安心して川とふれ合うことができるさまざまな体験活動の支援や、河川や水に関連した広範な知識・情報や川で遊ぶ機会の提供、河川環境や水辺での遊び方に関わる学習の手引きなどの作成等が行われており、講師として適任と考えられる。

●授業の内容

実習	水質調査 パックテスト	パワーポイントによる日光川の紹介とパックテストによる水質調査の実習講座。身近なところにあるいろいろな水の水質を知るために、パックテストによる水質調査で、木曾川・日光川・水道水・ビオトープの水をあらかじめ小学校で用意していただき、4班に分かれてパックテストを行い、その分析結果を一覧表にまとめてもらい、水質の違いを比較。	40分
体験型学習	水の循環	木曾川流域の地図をベースにして、サイコロによりいろいろな水の行き先が決まり、行先ごとにシールを貼りながら、ワークシートを完成させる体験学習。水は、地下水や湖等、雲といった様々な形態に変化しながら、流域の中を様々な経路を経て、循環していることを知る体験学習。	20分
	水の利用	自分たちが使っている水道水は、どこから来てどこへ行くのかを知る体験型の学習。班ごとに配られた番号付きのカードで水道水の経路を考える体験学習。	20分

●授業の様子

水質調査では、様々な水を分析することで、水質の違いを自分で感じてもらうことを目的にパックテストによる水質分析の実習を行いました。項目はCOD、窒素、リンだが、窒素系の水質項目がいくつか分かれていて、子どもたちには違いを理解するのは難しい状況でありましたが、分析自体は楽しそうに実施していました。また、「水の循環と利用」と題して行われた体験型の学習においても、水の循環では、河川を経由して地下水や雲等、水が様々な形態へと変化することを、シールを貼りながら確認していました。また水の利用では、河川の水は必ずしも海までたどり着けるわけではないですが、班ごとに配られた番号付きのカードにより、水道水がどこから（水源となる山等）きて、どこへたどり着くのか（海洋）を班ごとに体験学習を行いました。2つの体験学習では、班ごとに整理できた班と各個人がばらばらに体験した班とがありましたが、講師によるまとめで、再度学習の押さえがなされました。

パックテストによる水質分析



水の循環を地図とサイコロにより体験する学習

